












## 新採用医薬品情報2023-13

2023年8月4日

## I 院内採用医薬品【2023年8月8日(火)より使用可能です】

薬品名	製剤写真	適応症/用法・用量	採用条件・備考	添付文書
<b>オスタバロ皮下注カートリッジ1.5mg</b> [一般名] アバロパラアチド酢酸塩 [薬効分類] 骨粗鬆症治療剤 [貯法] 2-8°Cで保存 [区分] 処方/共通 [長期処方] 不可 (2023年12月1日より可)		・骨折の危険性の高い骨粗鬆症： 通常、成人には1日1回アバロパラチドとして80μgを皮下に注射する。なお、本剤の投与は18ヵ月間までとすること。	—	
<b>コセルゴカプセル10mg</b> [一般名] セルメチニブ硫酸塩 [薬効分類] 神経線維腫症1型治療剤 (MEK阻害剤) [貯法] 室温保存 [区分] 処方/共通 [長期保存] 不可 (2023年12月1日より可)		・神経線維腫症1型における叢状神経線維腫： 通常、小児にはセルメチニブとして1回25mg/m <sup>2</sup> (体表面積)を1日2回空腹時に経口投与するが、患者の状態により適宜減量する。ただし、1回量は50mgを上限とする。食事の影響により本剤のCmax及びAUCが低下するため、食事の1時間前から食後2時間までの間の服用は避けること。	全例調査対象医薬品であること、及び在庫管理のため患者限定とします。	
<b>コセルゴカプセル25mg</b> [一般名] セルメチニブ硫酸塩 [薬効分類] 神経線維腫症1型治療剤 (MEK阻害剤) [貯法] 室温保存 [区分] 処方/共通 [長期保存] 不可 (2023年12月1日より可)				



Ⅰ 院内採用医薬品【2023年8月8日（火）より使用可能です】

<p><b>ウエルパフォームZERO</b>          [一般名] ベンザルコニウム塩化物          [薬効分類] 泡状速乾性手指消毒剤          [貯法] 室温保存          [区分] 処置</p>		<p>・<u>手指の殺菌・消毒</u>：          適量を手指にとり、塗布または塗擦する。</p>	<p>本剤の採用に伴い、ノアテクトプロは当院取扱い中止となります。感染制御部が特定したアルコール及びクロルヘキシジン過敏症の職員のみで使用可能です。本剤の払い出し先は感染制御部のみです。</p>	
<p><b>オムニパーク350注50mL</b>          [一般名] イオヘキソール          [薬効分類] 非イオン性造影剤          [貯法] 室温保存          [区分] 処置</p>		<p>・<u>血管心臓撮影(肺動脈撮影を含む)、大動脈撮影、選択的血管撮影、四肢血管撮影、デジタルX線撮影法による静脈性血管撮影、コンピューター断層撮影における造影、静脈性尿路撮影、小児血管心臓撮影(肺動脈撮影を含む)</u>：          通常成人1回、下記の量を使用する。なお、年齢、体重、症状、目的により適宜増減する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.心腔内撮影：20～40mL(7～14g)</li> <li>2.冠状動脈撮影：3～8mL(1.05～2.8g)</li> <li>3.肺動脈撮影：20～40mL(7～14g)</li> <li>4.大動脈撮影：30～50mL(10.5～17.5g)</li> <li>5.選択的血管撮影：5～50mL(1.75～17.5g)</li> <li>6.四肢血管撮影：10～50mL(3.5～17.5g)</li> <li>7.デジタルX線撮影法による静脈性血管撮影：20～50mL(7～17.5g)</li> </ol>	<p>本剤の採用に伴い、イオヘキソール350注50mLは当院取扱い中止となります。</p>	
<p><b>オムニパーク350注100mL</b>          [一般名] イオヘキソール          [薬効分類] 非イオン性造影剤          [貯法] 室温保存          [区分] 処置</p>		<p>7.デジタルX線撮影法による静脈性血管撮影：20～50mL(7～17.5g)</p>	<p>本剤の採用に伴い、イオヘキソール350注100mLは当院取扱い中止となります。</p>	

Ⅰ 院内採用医薬品【2023年8月8日（火）より使用可能です】

<p><b>アセレンド注100mg</b>                  [一般名] 亜セレン酸ナトリウム                  [薬効分類] 低セレン血症治療剤                  [貯法] 室温保存                  [区分] 注射</p>		<p>・<u>低セレン血症</u>：                  通常、成人及び12歳以上の小児にはセレンとして1日100<math>\mu</math>gを開始用量とし、高カロリー輸液等に添加し、中心静脈内に点滴静注する。以後は、患者の状態により1日50-200<math>\mu</math>gの間で適宜用量を調整するが、効果不十分な場合には1日300<math>\mu</math>gまで中心静脈内に点滴静注することができる。通常、12歳未満の小児にはセレンとして1日2<math>\mu</math>g/kg(体重50kg以上の場合は100<math>\mu</math>g)を開始用量とし、高カロリー輸液等に添加し、中心静脈内に点滴静注する。以後は、患者の状態により1日1-4<math>\mu</math>g/kg(体重50kg以上の場合は50-200<math>\mu</math>g)の間で適宜用量を調整し中心静脈内に点滴静注する。                  なお、本剤の1日投与量を1日1回末梢静脈内に点滴静注又は緩徐に静脈内注射することもできる。</p>	<p>—</p>	
<p><b>イジウド点滴静注25mg</b>                  [一般名] トレメリムマブ（遺伝子組み換え）                  [薬効分類] 抗悪性腫瘍剤                  ヒト型抗ヒトCTLA-4モノクローナル抗体                  [貯法] 2-8°Cで保存                  [区分] 注射</p>		<p>・<u>切除不能な進行・再発の非小細胞肺癌</u>：                  デュルバルマブ(遺伝子組換え)及び白金系抗悪性腫瘍剤を含む他の抗悪性腫瘍剤との併用において、通常、成人にはトレメリムマブ(遺伝子組換え)として、1回75mgを3週間間隔で4回、60分間以上かけて点滴静注する。その後、7週間の間隔を空けて、トレメリムマブ(遺伝子組換え)として、75mgを1回60分間以上かけて点滴静注する。                  ・<u>切除不能な肝細胞癌</u>：                  デュルバルマブ(遺伝子組換え)との併用において、通常、成人にはトレメリムマブ(遺伝子組換え)として、300mgを60分間以上かけて単回点滴静注する。ただし、体重30kg以下の場合の投与量は4mg/kg(体重)とする。</p>	<p>—</p>	
<p><b>イジウド点滴静注300mg</b>                  [一般名] トレメリムマブ（遺伝子組み換え）                  [薬効分類] 抗悪性腫瘍剤                  ヒト型抗ヒトCTLA-4モノクローナル抗体                  [貯法] 2-8°Cで保存                  [区分] 注射</p>		<p>・<u>切除不能な肝細胞癌</u>：                  デュルバルマブ(遺伝子組換え)との併用において、通常、成人にはトレメリムマブ(遺伝子組換え)として、300mgを60分間以上かけて単回点滴静注する。ただし、体重30kg以下の場合の投与量は4mg/kg(体重)とする。</p>	<p>—</p>	
<p><b>コンファクトF静注用1000単位（高濃度）</b>                  [一般名] 乾燥濃縮人血液凝固第Ⅷ因子                  [薬効分類] 血漿分画製剤                  [貯法] 10°C以下に凍結を避けて保存                  [区分] 注射</p>		<p>・<u>血液凝固第Ⅷ因子欠乏患者に対し、血漿中の血液凝固第Ⅷ因子を補い、その出血傾向を抑制する</u>：                  ・<u>von Willebrand病患者に対し、血漿中のvon Willebrand因子を補い、その出血傾向を抑制する</u>：                  〈効能共通〉                  本剤250国際単位あたり添付の溶剤(日局注射用水)5mLで溶解し、緩徐に静脈内に注射又は点滴注入する。なお、1分間に5mLを超える注射速度は避けること。                  〈血友病A〉                  通常1回に血液凝固第Ⅷ因子活性(FVIII:C)で250-2,000国際単位を投与するが、年齢、症状に応じて適宜増減する。                  〈von Willebrand病〉                  通常1回にリストセチンコファクター活性(RCof)で750-6,000国際単位を投与するが、年齢、症状に応じて適宜増減する。</p>	<p>本剤の採用に伴い、コンファクトF注射用1000単位は当院取扱い中止となります。                  コンファクトF注射用1000単位は販売中止となります。</p>	

Ⅰ 院内採用医薬品【2023年8月8日（火）より使用可能です】

<p><b>ピリヴィジェン10%静注5g/50mL</b>                  [一般名] pH4処理酸性人免疫グロブリン                  [薬効分類] 血漿分画製剤（液状静注用免疫グロブリン製剤）                  [貯法] 凍結を避けて2～25℃で保存                  [区分] 注射</p>		<p>・無又は低ガンマグロブリン血症：                  1回200～600mg（2～6mL）/kg体重を3～4週間隔で点滴静注又は緩徐に静注する。患者の状態によって適宜増減する。                  ・慢性炎症性脱髄性多発神経炎の筋力低下の改善：                  成人には1日に400mg（4mL）/kg体重を5日間連日点滴静注する。                  ・慢性炎症性脱髄性多発神経炎の運動機能低下の進行抑制（筋力低下の改善が認められた場合）：</p>	<p>本剤は、ヴェノグロブリンIH静注の出荷調整が解除となるまでの期間限定で採用とします。</p>	
<p><b>ピリヴィジェン10%静注10g/100mL</b>                  [一般名] pH4処理酸性人免疫グロブリン                  [薬効分類] 血漿分画製剤（液状静注用免疫グロブリン製剤）                  [貯法] 凍結を避けて2～25℃で保存                  [区分] 注射</p>		<p>成人には「1,000mg（10mL）/kg体重を1日」又は「500mg（5mL）/kg体重を2日間連日」を3週間隔で点滴静注する。</p>		
<p><b>ピリヴィジェン10%静注20g/200mL</b>                  [一般名] pH4処理酸性人免疫グロブリン                  [薬効分類] 血漿分画製剤（液状静注用免疫グロブリン製剤）                  [貯法] 凍結を避けて2～25℃で保存                  [区分] 注射</p>				
<p><b>リプタヨ点滴静注350mg</b>                  [一般名] セミプリマブ（遺伝子組み換え）                  [薬効分類] 抗悪性腫瘍剤                  ヒト型抗ヒトPD-1モノクローナル抗体                  [貯法] 2-8℃で保存                  [区分] 注射</p>		<p>・がん化学療法後に増悪した進行又は再発の子宮頸癌：                  通常、成人には、セミプリマブ（遺伝子組み換え）として、1回350mgを3週間間隔で30分間かけて点滴静注する。</p>	<p>—</p>	

- \* 詳細に関しては薬剤部／医薬品情報室 内線5311までご連絡下さい。
- \* 「新採用医薬品情報」は電子カルテ（EGMAIN）掲示板およびイントラネットで参照できます。
- \* 電子カルテ（EGMAIN）薬品情報検索でも検索可能となります。
- \* 副作用および有害事象の発現を認めた場合は薬剤部／医薬品情報室 内線5311までご連絡下さい。

PMDA副作用報告方法及び報告書



PMDA医薬品情報検索

